

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4772600039		
法人名	社会福祉法人いなほ会		
事業所名	グループホーム いなほ		
所在地	中城村字添石363番地	(電話) 098-895-3003	
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成20年3月19日		

【情報提供票より】(平成20年2月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 3 日
ユニット数	ユニット 9 人
職員数	9 人 常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 2階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月19日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハートライフ病院・こうち歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは近隣に住宅は少ないものの、中城湾が一望できる見晴らしの良い高台に位置している。法人母体施設に併設され、救急体制や運営、職員の教育面等協力関係が構築されている。特に職員の教育面では法人全体で力を入れて取り組み、職員の認知症ケアに関する向上心は高い。バリアフリーのホーム内は明るく、木製の家具や調度品が配置され、ゆったりした雰囲気が感じられる。今後は地域自治会への加入や地域行事・活動への参加等、地域密着型サービスとしてさらに積極的な取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を活かし、利用者の金銭の使用に関する支援や掲示物の工夫など改善点に向けて多くの取り組みを行っている。今後も自己評価、外部評価の意義を日々の中で確認し、ケアの向上に繋がるよう具体的改善に取り組むことを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義、目的を全職員へ伝え、職員全員で自己評価に取り組み改善点を検討している。また運営推進会議で自己評価も報告され、検討されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回の定期で行われ、民生委員や包括地域支援センターの関係部署も参加している。日常的な活動の報告、活動内容、地域との交流、外部評価など意見交換を通してホーム、運営者共に改善に向けた取り組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の生活状況、金銭管理等定期的に家族へ報告を行っている。また定期的な便りの発行も行われている。運営推進会議への家族代表の参加はあるが、家族全体の意見が反映できるような家族会の利用やアンケートなどの工夫を期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアの訪問等レク活動で関係を深め、また、法人全体の取り組みとして地域ホームパーティーを毎月開催している。ホーム周辺には民家が少なく環境的な問題もあると思われるが、地域自治会への加入や地域行事、活動への参加等、地域密着型サービスとしてさらに積極的な取り組みを期待したい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしてこれまでの理念を見直し、新たに職員全員で理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に理念を唱和し、職員へ理念の浸透を図り、日々のケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生のボランティアサークルやボランティアの訪問等レク活動で関係を深め、交流を図っている。また、法人全体の取り組みとして地域ホームパーティーを毎月開催している。	○	ホーム周辺には民家が少なく環境的な問題もあると思われるが、地域自治会への加入や地域行事、活動への参加等、地域密着型サービスとしてさらに積極的な取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義、目的を全職員へ伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。また前回の評価を活かし、改善点に向けて取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、行事の報告や評価結果について意見交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当部署へ電話連絡等で事業所の状況報告やホーム便りで活動状況を報告しているが、行き来する機会は持っていない。</p>	○	<p>今後は地域包括支援センターが村直営になる為、運営推進会議を通しての連携が期待できる。地域密着型サービスとして、ボランティア活動や認知症ケア・介護予防教室、地域貢献活動等ホーム側からのより積極的な市町村との連携を期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の生活状況は家族の面会時や定期的な便りの発行を通して報告している。また、金銭管理については規定に則り、きちんと文書により定期的に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>国保連や市町村などの関係機関の連絡先表示や意見箱を設置し、面会時には家族からの意見や苦情などを確認するよう努めている。運営推進会議へは家族代表の参加があるものの、その他の家族の意見や要望などが十分反映できるしくみまでには至っていない。</p>	○	<p>家族全体の意見が反映できるような家族会の利用やアンケートなどの工夫を期待したい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での人事異動は最小限に抑え、異動がある場合でも入居者へのダメージを最小限に抑えられるよう引継ぎに時間をかけたり、異動後も気軽にホームを訪ねられるようにする等配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修委員会を設置し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。また、職員が前向きに研修に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会や交流会に参加する他に、最寄のグループホームとも定期的に交流会を行って、相互のサービスの向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者、家族は見学を行い、入居後も本人が馴染むまでは家族と相談しながらスタッフの付き添い、面会など早期に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者としつくり話を聞く姿勢で利用者個々の思いを把握するように努めている。家事等を手伝ってもらったりした場面では感謝の言葉を伝えるなど一緒に過ごしながらか共に支えあう関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりで利用者の意向や希望の把握に努め、言葉、表情からも利用者の思いを推測して確認するようにしている。		利用者の思いや意向を把握する際、職員全員で共有しプランに活かせるよう、把握した内容の記録など工夫を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族及び職員の意見を確認し、入居前の情報も積極的に取り入れてケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスの中で職員全体でケアプランを評価、検討し定時、必要時のケアプランを見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて対応している。また、医療的な訪問診療や訪問看護ステーションとの連携を検討している。	○	地域密着型サービスの多機能性として地域との連携も不可欠と思われ、地域密着型サービスとしての機能を十分に発揮できるよう地域への働きかけ等の工夫を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には生活及び身体状況等の情報提供を行い、かかりつけ医師からもきちんと受診後の情報提供が交付され、適切な医療が受けられるよう関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について職員間では少しずつ話し合われているが、家族に対しては検討はしているものの具体的な話し合いはまだ出来ていない。	○	職員間や家族、運営推進会議などの話し合いの中で、重度化する前に方針を早い時期から検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や定時のミーティングで利用者のプライバシーや尊厳を損ねないよう日ごろから話し合い、ケアを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力や体調にあわせ食事や入浴、レク活動など利用者の希望を聞きながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員共に同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気の中で食事を行い、準備、片付けなども一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望時間に合わせながら基本的には同性での入浴ケアを行い、ほとんど毎日の入浴を行っている。		湯船の利用を希望してくる利用者は現在いないが、さらに入浴の楽しみが得られるよう浴槽の活用も期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	定期的な野外活動が計画され、気分転換を図っている。また個々の能力に合わせた役割を依頼し、感謝の言葉を述べながら支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2回の野外活動やドライブ、その他随時に希望に応じて日常的に外出の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をしなくて利用者の居場所を常に把握し、センサーの活用などで鍵をかけないケアの実践を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会やタクシー協会の協力を得ながら、法人全体として定期的な避難訓練を行っている。スプリンクラーなど防災設備も充実している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ食事の形態を工夫したり、必要に応じて声掛けや介助をして食事がきちんとできるように支援している。食事量や水分量もチェックし、法人内の管理栄養士とも連携を取りながら栄養面でも十分支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はとところどころに休憩が出来るソファや椅子が配置され、家庭的な雰囲気で利用者の作成した季節感が感じられる作品の掲示などがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日常使い慣れた物品の持込が可能であり、家族へ馴染みの物品の持込を説明しているが持込の物品がまだ少ない。入居者により居室の持ち込みに差が見られる。	○	家族へ使い慣れた物品や好みの物の持込の必要性をさらに説明し、協力を得ながら、入居者個々のその人らしさが感じられるような居心地の良い居室作りを期待したい。